

に

地 理 B 問 題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 22 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 以下の設問に答えよ。

問 1 地図投影法にはさまざまなものがあるが、以下の図法のうち、正積図法に分類されないものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① メルカトル図法 ② グード図法 ③ サンソン図法
④ ボンヌ図法 ⑤ モルワイデ図法

問 2 地図には、特定の事象を効果的に示すことに特化した主題図がある。ヨーロッパ各国について、近隣諸国から1年間にどの程度の数の観光客が入国しているのかを効果的に示したいときに採られる地図表現として、最も適切なものを以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① カルトグラム ② メッシュ地図 ③ 階級区分図
④ 等値線図 ⑤ 流線図

問 3 次ページのA図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図(原寸、平成21年発行)の一部である。これをみて以下の設問(1)～(4)に答えよ。

(1) A図中のX地点とY地点の高度差として、もっとも近いものを以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 150 m ② 200 m ③ 250 m
④ 450 m ⑤ 680 m

(2) A図の範囲にみられない土地利用を以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 田 ② 畑 ③ 果樹園
④ 桑畑 ⑤ 茶畑



A図

(3) カルスト地形とは、石灰岩が分布する地域によくみられる地形を総称したものである。この「カルスト」の名は、ある国の地方名に由来する。その国の名称として適切なものを以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① イタリア ② ギリシャ ③ スペイン
④ スロベニア ⑤ ノルウェー

(4) サンゴ礁の地形について述べた以下の文中の空欄 と に入る適切な語句を、それぞれの選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

サンゴ礁の地形はその形態から主に3つに分類される。これらのうち、日本の南西諸島で主にみられるのは と呼ばれるものである。また、この は、19世紀中頃にイギリスの によって提唱されたサンゴ礁の発達過程を示す説においては、最初に成立する形態であるとされる。

- ① 暗礁 ② 環礁 ③ 岩礁
 ④ 裾礁 ⑤ 堡礁

- ① マゼラン ② クック
 ③ ダーウィン ④ フンボルト
 ⑤ リヴィングストン

問 4 次ページのB図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図(原寸,平成15年発行)の一部である。これをみて以下の設問(1), (2)に答えよ。



B図

(1) B図中の「丹後山」, 「石山」, 「大峯」を含む, 標高 200~250 m 程度の山塊について説明した文章として, 適切なものを以下の選択肢から 1つ選び, その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 溶岩円頂丘群であり, マグマの粘性が高かったために, 全体としてドーム状またはテーブル状に成長した。
- ② カルデラと呼ばれるマグマの巨大な噴出口であり, 噴火の最終段階にマールを形成する水蒸気爆発が, 数多く連鎖的に発生した。
- ③ 「抗火石」の採掘がさかんにおこなわれた結果, 標高 200~250 m の平坦部に, 人工地形としての多数のボタ山と陥没孔群が生じた。
- ④ 全体として隆起した準平原とみられ, 相対的に硬い岩石からなる部分が, 多数のモナドノックとして残っている。
- ⑤ 地塁山地とよばれるものであり, 多数の断層運動によって, 細かな地塁と地溝にわかれている。

(2) B図から読み取れる「新島空港」の滑走路の長さとして, 最も近いものを以下の選択肢から 1つ選び, その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 400 m ② 900 m ③ 1800 m
- ④ 2700 m ⑤ 4000 m

問 5 次ページのC図は, 国土地理院発行の2万5千分1地形図(原寸大, 平成14年発行)の一部である。これをみて以下の設問(1), (2)に答えよ。

(1) C図中, 「横根岡」の集落は崖下に立地している。このことについて, 自然環境上の長所・短所を, それぞれ解答欄の枠内に記せ。

(2) C図に示す範囲の農業的土地利用は, 地形との対応関係が比較的明瞭である。これらのうち, 田の分布について, 地形の特徴に言及しながら解答欄の枠内に説明せよ。



C 図

〔Ⅱ〕 東京、ソウル、上海、香港、台北、シンガポールといったアジアの諸都市は、いまやグローバル都市として著しい発展をとげている。これらの6都市に関する以下の設問に答えよ。

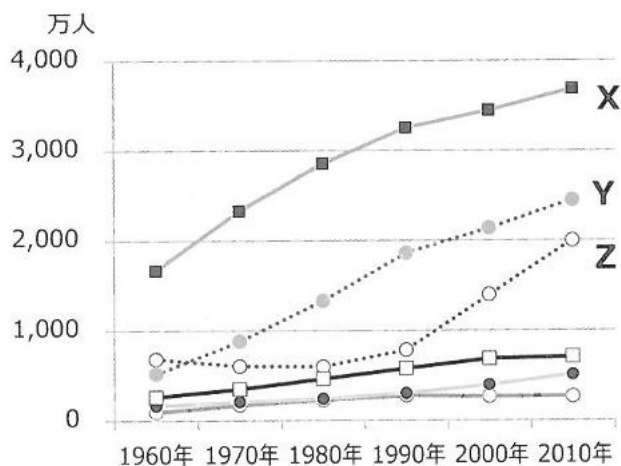
問 1 これらの都市を北から南へ順に並べた時、4番目に位置する都市を以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 香港 ② ソウル ③ 上海
 ④ シンガポール ⑤ 台北 ⑥ 東京

問 2 グリニッジ標準時(GMT)との時差が、東京と等しい都市の数を以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 0 ② 1 ③ 2
 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 5

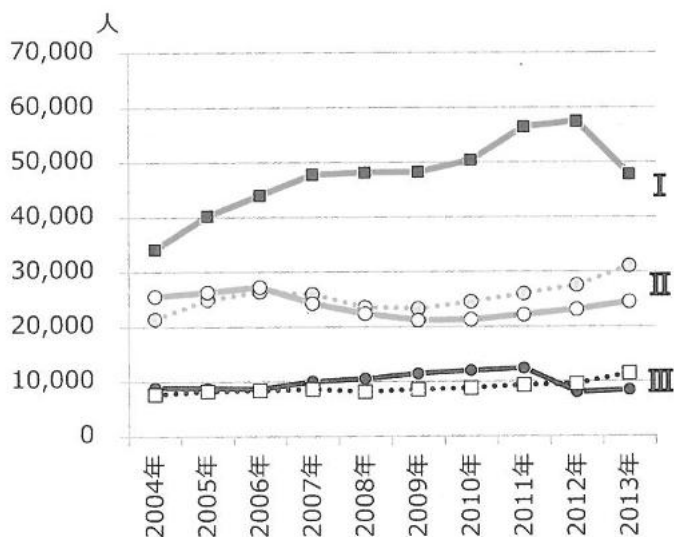
問 3 下の図は、各都市の都市圏人口の推移を示したものである。図中のX、Y、Zの都市の組み合わせとして正しいものを以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。



United Nations : *World Urbanization Prospects: The 2014 Revision* をもとに作成。なお、東京は関東大都市圏、ソウルはソウル首都圏、上海は上海直轄市、台北は台北直轄市の人口を示す。

	X	Y	Z
①	ソウル	上 海	東 京
②	ソウル	東 京	上 海
③	上 海	ソウル	東 京
④	上 海	東 京	ソウル
⑤	東 京	上 海	ソウル
⑥	東 京	ソウル	上 海

問 5 下の図は、各都市の在留邦人数の推移を示したものである。これをみると、大きく3つのグループに分けることができる。I、II、IIIのグループに含まれる都市の組み合わせとして、適当なものを以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。



外務省『海外在留邦人数統計』各年度版（10月1日現在）をもとに作成

	I	II	III
①	上海	シンガポール, ソウル	香港, 台北
②	上海	シンガポール, 香港	ソウル, 台北
③	シンガポール	上海, ソウル	香港, 台北
④	シンガポール	上海, 香港	ソウル, 台北
⑤	香港	上海, ソウル	シンガポール, 台北
⑥	香港	上海, シンガポール	ソウル, 台北

問 6 以下の文章を読み、下記の設問(1)、(2)に答えよ。

ソウルは、市の中心部を が貫流し、その右岸に旧市街が広がるが、左岸の は1970年代以降、オフィスや住宅地の開発が著しく、1988年に開催されたオリンピックの主会場にもなった。旧市街を流れる の支流 は1960年代に暗渠化され、その上に高架道路ができたが、2000年代になって高架道路の撤去と川の復元工事が行われ、親水空間として再生された。

上海は 河口の南に位置する。市内を の支流 が南北に流れ、その左岸の は、かつて租界地区となり、今日でも1920年代に建てられた歴史的建造物が並んでいる。対照的に右岸の は、新しく開発された新市街であり、近代的な超高層ビルが次々と建設され、国際金融の中心として成長が著しい。2010年の万国博覧会の会場にもなった。

香港は、イギリスが中国から割譲された香港島と九龍半島、および租借する からなる植民地であったが、1997年に中国に返還され、中国の特別行政区となった。 は、1970年代ごろまでは、ほとんどが山林と原野、農村にすぎなかったが、香港の人口増加とともにニュータウンが次々と建設され、香港のベッドタウンとなった。

(1) 文中の空欄 ～ にふさわしい語句を、以下の選択肢からそれぞれ1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------|-------|-------|
| ① 長江 | ② 清溪川 | ③ 淡水河 |
| ④ 漢江 | ⑤ 淮河 | ⑥ 黄浦江 |
| ⑦ 黄河 | ⑧ 渭水 | ⑨ 珠江 |

(2) 文中の空欄 **ア** ～ **エ** にふさわしい語句を、以下の選択肢からそれぞれ1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ① 宝 山 | ② 江 南 | ③ 新 竹 |
| ④ 明 洞 | ⑤ 南 山 | ⑥ 浦 東 |
| ⑦ 王府井 | ⑧ 外 灘 | ⑨ 新 界 |

問 7 以下の文章のうち、正しいものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① ソウルと台北には、日本統治時代に総督府が置かれ、その建物は第2次世界大戦後、一時政府の庁舎や博物館として使われたが、現在は撤去されている。
- ② オンドルとは、朝鮮半島で普及した床下暖房であるが、韓国では中高層アパートの普及に伴い床下暖房は衰退し、石油やガスのストーブが一般的な冬季の暖房として使われている。
- ③ 胡同とは、中国の伝統的の家屋建築のことで、風水の原則に従っているが、都市整備や再開発で、その多くが取り壊された。
- ④ ショップハウスとは、複数の建物が共同で家の前に設置したアーケードのことで、東南アジアの多雨地帯に多くみられる。
- ⑤ 中国では、土地は国有であるものの、その使用权は自由に売買できるため、都市部の住宅の価格は高騰している。

問 8 シンガポールに関する以下の文章のうち、正しいものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① シンガポールは、ジョホール海峡でマレーシアと、シンガポール海峡でインドネシアと隔てられた都市国家である。
- ② シンガポールは、ASEAN 発足当初からの構成国であり、その本部がおかれている。
- ③ シンガポールで最も高い超高層ビルは、国営の石油会社のものであり、イスラム教寺院のモスクをイメージした尖塔が特徴的である。
- ④ シンガポール全人口のうち、シンガポール国籍保持者は6割強であり、残りの4割弱のうちで最も多いのは、旧宗主国のイギリス人である。
- ⑤ シンガポール島の南に隣接するセントーサ島には、職住近接の工業団地、ニュータウンが建設され、輸出加工区となっている。

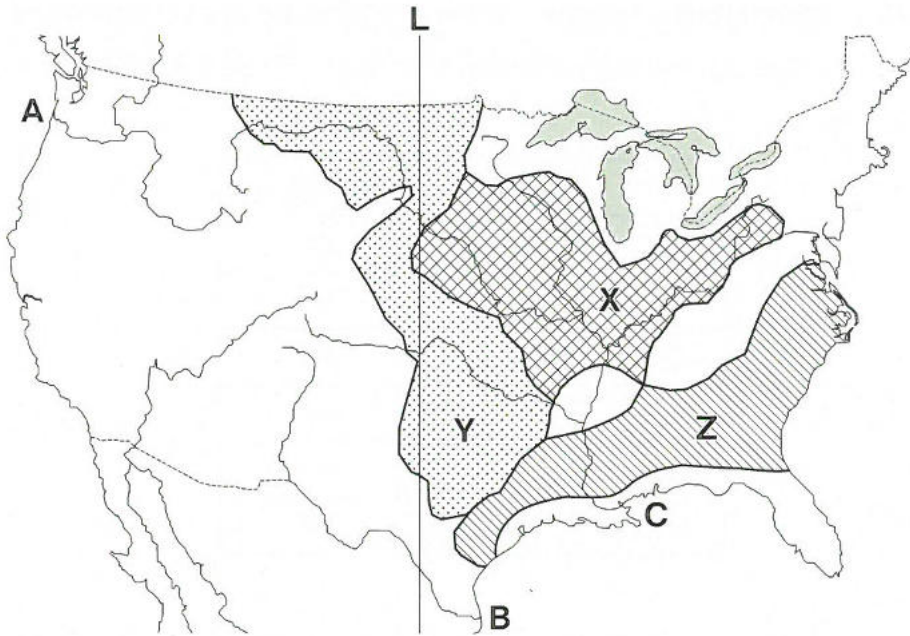
問 9 シンガポールは、東南アジアに進出する多国籍企業の地域統括本部や、これらの企業に資金を調達する世界の主要金融機関が集まり、世界の金融センターの一つとして発展が著しい。シンガポールに多くの多国籍企業が集まる背景について、解答欄の枠内に、2点にまとめて説明せよ。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、地図を参照して、下記の設問に答えよ。

アラスカとハワイを除くアメリカ合衆国の国土には、西側に急峻なロッキー山脈、東側になだらかな地形をなす 山脈が南北に走っている。これらの山脈間には広大な草原が広がり、その中央部を北アメリカ最大の河川が貫流し、メキシコ湾に注いでいる。

両山脈間の地域は、地図中の経線 L 付近を境に気候的に変化し、それにともなつて農業の形態も大きく変わる。北東部の大西洋岸から五大湖にかけては、酪農がさかんであり、その南の地図中の X に該当する地域では、とうもろこしや大豆を中心とした飼料作物の輪作と、家畜の飼育を組み合わせた混合農業がさかんである。地図中の Y に該当する地域は小麦の大規模生産地域である。また、グレートプレーンズにおいて、 帯水層など豊富な地下水の利用が可能な地域では、大規模な灌漑農業が発達し、企業的な肉牛の肥育場もみられる。地図中の Z に該当する地域では、¹⁾ 奴隷解放後、綿花栽培の重要性が次第に低下し、農業の多様化が進んでいる。太平洋岸では、果樹や野菜の集約的農業が行われ、機械化の難しい農作業は、アメリカ合衆国の人種・民族構成上、2 番目に大きな割合を占める 系の季節労働者に依存している。

アメリカ合衆国の工業中心は、大西洋岸から五大湖沿岸にかけての地域であった。五大湖や河川・運河などの水運と豊かなエネルギー・鉱産資源とが結びつく²⁾ことで、世界有数の重工業地域が形成された。しかし、この地域は、第二次世界大戦後になると、日本やヨーロッパ諸国の工業化に伴い、厳しい国際競争にさらされるようになった。また、国内では、1970 年代以降、北緯 37 度以南の地域³⁾に、石油化学工業、航空宇宙産業、情報技術産業などの先端技術産業の立地・集積が急速に進むようになった。伝統的な北部の重工業地域がスノーベルトと呼ばれるのに対して、この地域は と呼ばれている。



問 1 文中の空欄 ～ にあてはまる語句を、解答欄に記せ。

問 2 地図中の A, B, C に該当する河川の組み合わせとして、適切なものを以下の選択肢から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

	A	B	C
①	リオグランデ川	コロンビア川	ミシシッピ川
②	コロンビア川	ミシシッピ川	リオグランデ川
③	ミシシッピ川	リオグランデ川	コロンビア川
④	リオグランデ川	ミシシッピ川	コロンビア川
⑤	コロンビア川	リオグランデ川	ミシシッピ川
⑥	ミシシッピ川	コロンビア川	リオグランデ川

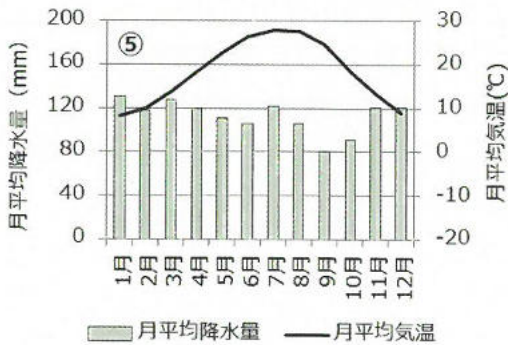
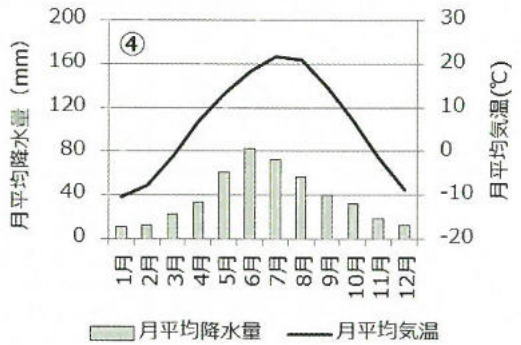
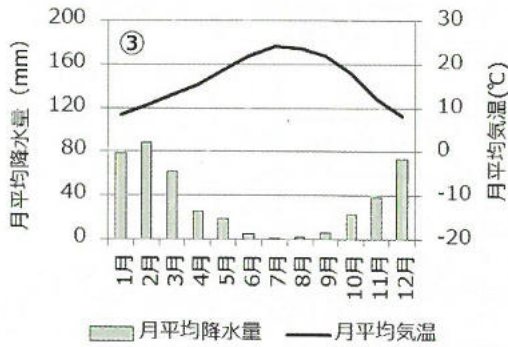
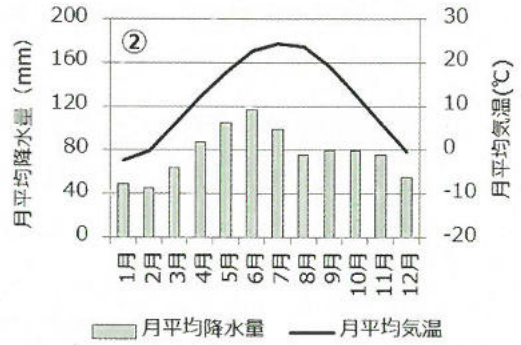
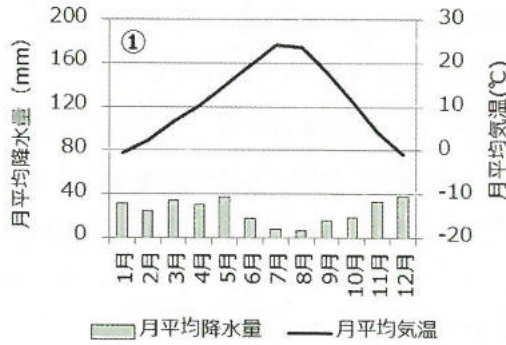
問 3 地図中の経線 L の経度と、その付近の年降水量に最も近い組み合わせとして、適切なものを以下の選択肢から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

	西経(度)	年降水量(mm)
①	100	250
②	110	250
③	100	500
④	110	500
⑤	100	750
⑥	110	750

問 4 地図中の X, Y, Z は、アメリカ合衆国の主要農作物の生産地域である。それらの生産地域にある州の組み合わせとして、適切なものを以下の選択肢から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

	X	Y	Z
①	ジョージア州	イリノイ州	カンザス州
②	イリノイ州	ジョージア州	カンザス州
③	カンザス州	ジョージア州	イリノイ州
④	ジョージア州	カンザス州	イリノイ州
⑤	カンザス州	イリノイ州	ジョージア州
⑥	イリノイ州	カンザス州	ジョージア州

問 5 以下の雨温図のうち、地図中の農作物地帯XおよびZに位置する州の州都に該当するものを、それぞれ1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。



(気象庁ホームページ「世界の天候」のデータをもとに作成)

問 6 文中の下線部 1) に関し、肉牛の企業的な肥育場をさす適切な語句を、カタカナで解答欄に記せ。

問 7 文中の下線部 2) に関し、この地域の重工業、特に鉄鋼業の発展には、メサビの鉄鉱石とアパラチアの石炭との結びつきを抜きに語れない。そこで、五大湖の水運を使ってメサビの鉄鉱石を、積出港であるダルースから、製鉄所のあるクリーヴランドに輸送するとした場合、最初と最後に通過する湖の組み合わせとして、適切なものを以下の選択肢から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

	最初	最後
①	ミシガン湖	オンタリオ湖
②	ミシガン湖	エリー湖
③	ヒューロン湖	オンタリオ湖
④	ヒューロン湖	エリー湖
⑤	スペリオール湖	オンタリオ湖
⑥	スペリオール湖	エリー湖

問 8 文中の下線部 3) に関し、北緯 37 度以南の先端技術産業集積都市として、適切な都市を以下の選択肢から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① セントルイス ② デンヴァー ③ ニューオーリンズ
④ フェニックス ⑤ ボルティモア ⑥ ミネアポリス

〔IV〕 次の文章を読み、下記の設問に答えよ。

自然環境の無機的な部分は、気圏・水圏・地圏に大別できる。これに生物圏を加えて現実の陸地の自然環境を整理すると、気候・植生・土壌のタイプとその分布の組み合わせに規則性がある¹⁾ことがわかる。このような知識の構築は、世界の自然環境に関する科学的情報がある程度集積して初めて可能となるため、近代のほぼ同じ時期に進展した。例えば気候のタイプに関しては、ドイツのケッペン²⁾(W. Köppen 1846-1940)が示した気候分類が重要である。地形のタイプに関しては、その成因に外的営力と内的営力がある³⁾ため分布に関する規則性が複雑になるが、とくに大規模な地形の発達と変化については、アメリカのデーヴィス⁴⁾(W. M. Davis 1850-1934)が示した地形の見方がよく知られている。

水圏を構成する物質としての水はグローバルに循環している。地球表面の7割を占める海面からの蒸発、海洋以外の水面からの蒸発、陸地からの蒸発散は、水蒸気として大気の一部となって風とともに移動する。この湿潤な風が上昇気流になると雲が発生して降水をもたらす。地球全体でもっとも降水量が多い緯度帯は赤道付近であり⁵⁾、平均的な年降水量は2000 mm程度になる。次いで降水量が多いのは緯度40度付近の中緯度で、年降水量は1000 mm程度である。低温になると降水量は少なくなるが、中緯度帯の冬や山岳地域および高緯度帯⁶⁾では、降水は雪となることも多い。

以上のような気候と地形は、われわれの生活の基盤である集落の基本的な立地条件として重要である。中緯度の海岸平野の例として関東平野をとりあげてみる。関東平野は主として低地と台地からなるが、低地では古くから水田耕作が発達し、農村の集落は台地の縁に相当する段丘崖の下や、洪水の被害にあいにくい⁷⁾微高地に成立した。いっぽう台地では近世の新田開発⁸⁾まで集落が成立することも稀で、農業の生産性は低かった。その後、近現代の都市化の進行にともない、上下水道などのライフラインの整備とともに、台地は住宅地としての有用性を著しく高めることになった。その結果、かつては気候と地形に大きな影響を受けていた植生と土地利用の分布状況は、社会経済的な条件によって大きく変更され⁹⁾地方レベルで統計的に比較した場合にいくつかの特徴を示すようになった。

問 1 文中の下線部 1) に関して、一定の気候と植生の組み合わせを生成条件とする土壌を成帯土壌、それ以外の特殊な地質などの存在を生成条件とする土壌を間帯土壌という。以下の土壌に関する説明から正しいものを 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① ポドゾルは灰白色の成帯土壌で、主に亜寒帯の針葉樹林に分布する。
- ② チェルノゼムは赤色の間帯土壌で、主に玄武岩質の溶岩台地上に発達する。
- ③ ラトソルは黒色の成帯土壌で、主に熱帯の半乾燥地の草原に発達する。
- ④ テラロッサは赤色の成帯土壌で、主に地中海性気候の落葉広葉樹林に分布する。
- ⑤ クロボク土(アンドソル)は灰白色の間帯土壌で、主に日本などの火山灰台地に分布する。

問 2 文中の下線部 2) のケッペンの気候分類の説明として、もっとも適切なものを以下から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 作物の栽培が気温と降水量に強く影響されるため、穀物分布に注目して気候を分類した。
- ② 土壌の形成が気温と降水量に強く影響されるため、土壌分布に注目して気候を分類した。
- ③ 動物の分布が気温と降水量に強く影響されるため、動物分布に注目して気候を分類した。
- ④ 植物の生長が気温と降水量に強く影響されるため、植生分布に注目して気候を分類した。
- ⑤ 住居の形態が気温と降水量に強く影響されるため、家屋分布に注目して気候を分類した。

問 3 文中の下線部 3)の内的営力と外的営力(内作用と外作用ともいう)のうち、外的営力の例を1つ、解答欄に枠内に収まる程度の字数で簡潔に記せ。

問 4 文中の下線部 4)のデーヴィスの主な学説を示すキーワードとして、もっとも適切なものを以下から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 地殻変動
- ② 大陸移動
- ③ 地形輪廻
- ④ プレートテクトニクス
- ⑤ 造山運動

問 5 文中の下線部 5)に関して、赤道付近で降水量が多くなる理由として、もっとも適切なものを以下から1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 赤道付近の海面温度は亜熱帯海域よりかなり高く、海面からの蒸発量が非常に多いため。
- ② 周囲から風を集めて上昇気流を起こす台風のような熱帯低気圧が発生・通過する緯度帯だから。
- ③ 亜熱帯高気圧に覆われて日射量が大きいため、地表が過熱して上昇気流を起こしやすいから。
- ④ 北半球の北西季節風と南半球の南西季節風が赤道付近で合流し、上昇気流が発生しやすいから。
- ⑤ 北半球の北東貿易風と南半球の南東貿易風が赤道付近で合流し、上昇気流が発生しやすいから。

問 6 文中の下線部 6)に関して、中高緯度の冬の降水(雪)は積雪として雪解けの季節まで地表に貯留されるが、この領域における積雪以外の固体の水の貯留形態を1つ、解答欄の枠内に記せ。

問 7 文中の下線部 7) に関し、河川がつくる微高地の例として、適切なものを以下から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 自然堤防 ② 扇状地 ③ 浜 堤
④ 丘 陵 ⑤ 砂 州

問 8 文中の下線部 8) の台地上の新田開発の説明として、もっとも適切なものを以下から 1 つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 用水を開削したため、水田が発達して散村が成立した。
② 台地に点在する沼地を干拓して水路を整備し、水田が発達して塊村が成立した。
③ 台地に点在する地下水である宙水に多数の井戸を掘削し、畑作主体の塊村が成立した。
④ 用水を開削したが畑作主体で、道路に直交する短冊状の区画が並ぶ路村が成立した。
⑤ 草地を活用した牧畜を生業とし、生活用水のための井戸を中心に塊村が成立した。

問 9 文中の下線部 9) に関して、次ページの表を見て以下の設問(1), (2)に答えよ。なお、表中の「二次」というのは、人為的に伐採、刈り取り、火入れなどの行為により破壊されたあと放置され、自然に再生した場合を指す。

(1) C 地方は農地の面積比が日本で最大だが、同時に市街地等のそれも最大である。よってこの地方は農業地域であり、同時に都市化が進行した地域でもあるといえる。このようなことが生じた自然条件について、解答欄の枠内に、具体的な地方名をまず記してから、簡潔に説明せよ。

(2) 表中 A～D には、地方名として、北海道、関東、近畿、沖縄のいずれかが該当する。B と D の地方名をそれぞれ解答欄に記せ。

表 わが国の地方別の植生および土地利用の面積比

(1999年3月現在・単位%)

区 分	自然の 草 原	二次草原	自然の 森 林	二次林	植林地	農 地	市街地等
A	2.2	4.6	46.5	5.8	17.0	21.2	2.6
B	5.6	7.6	42.3	1.2	1.1	32.8	9.4
東 北	0.9	3.9	14.3	28.2	26.3	22.4	4.0
中 部	0.9	2.8	14.2	30.8	24.0	20.5	6.8
九 州	0.5	3.8	8.5	18.1	36.5	27.2	5.4
C	1.1	2.4	5.9	17.1	22.7	36.6	14.2
四 国	0.3	1.2	3.6	31.3	41.8	18.2	3.9
D	0.5	1.6	2.9	34.2	30.9	18.6	11.5
中 国	0.2	6.1	1.4	50.9	16.9	20.5	4.1
全 国	1.1	3.6	17.9	23.9	24.8	22.9	5.8

(出典)環境省『平成26年版 環境統計集』(p.123の表を一部改変)